

言者ムハンマド (9/12) : 同盟部族の反逆

:

明:

ウフドにおける りは多くの殉教者を出し、その の新 略によってムスリムたちは 利を手にししました。

目: [事 言者ムハンマド彼の](#)

より: IslamReligion.com

日 06 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

ウフド山の い

翌年には、 に3,000人を した がヤスリブ (マディ ナ) の破 を目的としてマッカから して 来ました。 言者は当初、“ 信者たちの ” であるイブン ウバイの案、つまり町に留まり 防御に することに 成でしたが、バドルで った 士たちはいかなる逆境であってもアッラ によるご助力があると信じ、壁の ろで待ち けることは 辱であると主 しました。

言者は彼らの信仰心と 意を し、彼らの意 を承 すると、1,000人の を率いて の野 している ウフド山へと出 しました。イブン ウバイは として、 の3分の1にも していた多数の彼の 部下と共に撤退しました。このような重大な逆境にも わらず、ウフド山の いはムスリ ムにとっての更なる大きな 利に いていました。しかし、 言者が への攻 のために配置さ せていた50名の弓 による不 によって 向きが一 します。彼らは自 の 士たちが一旦 利を め たのを ると、 が 了したと早合点し、 利品を失うことを恐れて持ち を去ったのです。ク ライシュ族の は谷 を り越え 利に喜んでいたムスリムたちを一 に攻め みました。この形 逆 により 言者自身も し、彼が 害されたという 解が まる程でしたが、ある者が彼の生存 を すると、ムスリムたちは 言者の周りに集まり、山麓に多数の 体を残して退却を始

めました。 はマッカのものとなり、クライシュ族の女性たちが自の死者たちをき悲しむとともに、ムスリムの殉教者たちの体を して回りました。殉教者の一人であった言者の若き叔父ハムザは、彼に特な怨みを抱いていたアブ スフヤンの妻ヒンドによってその害に 金を出されていきました。彼女は彼のまだ温かい体をつけると、そこから肝を裂き出してそれにみ付くという忌まわしい行いをしました。翌日、言者は再び残りのおと出しました。彼はもしクライシュ族が言者の生存を知れば、町への攻が阻止出来る 予していきました。その作は、ムスリムたちと友好 にあった一人のベドウィンが、彼らと言を交わした にクライシュ族の に会うことにより事に成功したのです。彼はアブ スフヤンの を受けると、ムハンマドがまだ にいること、更に彼は前日の出来事への雪辱に燃えており、これまでも して力 なくなっていたということを えました。こうしてアブ スフヤンは、マッカへの退却を 定めたのです。

ムスリムの虐

ウフド山での形 の逆 によって、アラブ 部族、またヤスリブのユダヤ教徒たちにとってムスリムの威信は下がっていました。ムスリム に 斜していた 部族は、今度はクライシュ族 へと き始めました。言者の追 者たちは少数での旅路において を受け 害され、言者の使 の一人であったフバイブらは砂漠の部族に捕らえられ、クライシュ族に られた げ句、マッカでの公 拷 によって命を落としました。

ナディール族の排除

ユダヤ教徒たちは、当初ムスリムたちと していた条 にも わらず、これまで していた 意をあらわにし始めました。彼らはクライシュ族、そして‘信者たち’との同盟を交し 始め、更には 言者の命さえ狙ったのです。言者は彼らの一部に して 措置をとらざるを得ませんでした。ユダヤ教徒の一部族、ナディール族は包 、抑制されて移住を いられました。

壕の い

アブ スフヤ ンには、このままではいけないという焦りがあったのでしょう。ムスリム たちを 底的に ぼさない限り、彼の 利はなかったのです。彼は巧みな外交手段により、一部のムスリムに 抗していた 部族、そして に略 を望んでいたベドウィン 部族との同盟 を び、同 にマディ ナにいたユダヤ 部族とも密かに同盟の可能性を探り始めました。そしてヒジュラ 5年（西 627年）、彼は10,000人という、ヒジャ ズ地方（アラビア半 の西 部）における前代未 の と共に 出 しました。一方マディ ナでは 抗 力として3,000人を する ことで精一杯でした。

言者は作 を きましたが、そのとき と真っ向から 峙することを示唆する者は一人もいま せんでした。唯一の は、いかにして町を守るかということでした。この 、ペルシャ人 の元奴 であり、その 最も著名な教友の一人となったサルマ ンは、前 に深い 壕を掘るこ とを提言しました。これはアラビアの 争において前例のないものでしたが、 言者はそ の案を真っ先に し、直ちに 行へと移しました。そして彼自身もその作 に加わり、背中 に瓦 を抱えて び出しました。

部族 合が地平 に姿を せた 、作 は辛うじて っていました。ムスリム が のために 出 すると 、それまでマディ ナで同盟を んでいたユダヤ人部族のクライザ族が へ 反したという知 らせが入って来ました。状 は 望的に えました。言者は全ての兵力を 壕に 集させており 、町は盲目であった教友の指 下にあったのです。前 で が予期しなかった障害に到 すると、彼らには矢が雨のように降り注ぎました。彼らは 壕を越えることが出来ず、3、4 に渡りその に留まり、矢の と舌 がり げられたのです。やがて天候は てつくような と凄 まじいどしゃ降りによって堪え いものとなり、これによって な略 を期待していたベド ウィンの 合 部族は 壕の で泥まみれになり、 の不足で家畜が死んで行くのを ながら、天 候の中で得るものは何もないと悟り、アブ スフヤ ンに を告げたのです。 は崩 し、彼自 身も撤退を余 なくされました。 いは わりました。彼は 北したのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/177>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。